

# フレキシブル継手共通 取扱上の注意

## 使用上の注意事項

- 1) ご使用前に製品の損傷の有無をご確認ください。特にパッキン面、ゴム本体内外面などに損傷がある場合は使用しないでください。
- 2) 使用範囲については現場の最高使用圧力・最高使用温度が各製品の使用範囲内であることを確認の上、ご使用ください。使用範囲外での使用は製品の寿命を著しく短くし、流体の漏れなど不具合の原因となります。
- 3) 製品は、締切運転などの誤動作によって破損する恐れがありますので、運転時には必ずバルブの開閉をご確認ください。
- 4) 流体を急激に流すようなバルブ操作はしないように充分ご注意ください。
- 5) 製品は管内流速3m/s以下でのご使用をお勧めします。
- 6) 本体には油脂・有機溶剤（シンナー・トルエンなど）・酸・アルカリなどが付着しないように注意してください。万一、付着した場合は速やかに拭き取ってください。
- 7) 配管ラインの耐圧試験をエアードで行う場合には、製品本体を外してから行ってください。また、製品本体を取付けた状態での試験は、エアード加圧ではなく、液体加圧にて行ってください。
- 8) ゴム製可とう伸縮継手を斜めに取付ける場合は検討を要しますので営業担当までお問合せください。
- 9) 建物のエキスパンションジョイント部などで、製品をL字2本組にて使用する場合は、試運転・運転中の圧力によって生じる反力を抑えるため、コントロールユニットのご使用をお勧めします。配管の固定について（P.115）をご参照ください。
- 10) フッ素樹脂製フレキシブル継手FLONEXαシリーズの谷部、特に補強リング周辺のゴミは取除いてください。

## 保管上の注意事項

- 1) 運搬中・保管中、製品本体に損傷を与えないよう充分にご確認ください。また、損傷などがある場合は使用しないでください。
- 2) 冷暗所に保管し直射日光を避けてください。
- 3) 製品に火気が当たらずよう充分にご確認ください。
- 4) 製品に荷重をかけないようにご注意ください。

## 製造年月の表示

製造年月の表示は、本体ゴム部に右図のように表示されています。

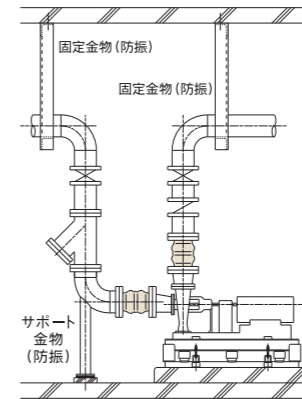
(例) 2019年5月製造の場合



19 05  
① 製造年 ② 製造月

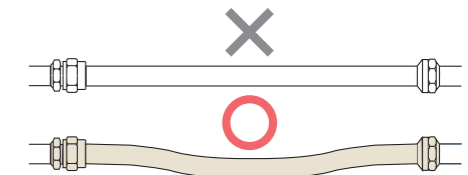
## 施工上の注意事項

- 1) 製品をポンプに取付ける位置は右図をご参照ください。特に逆止弁の下流（吐出）側に製品を接続すると、常に水頭圧による疲労の蓄積とポンプの起動・停止による水撃などで不具合を引起す危険性がありますので、製品はポンプと逆止弁の間に接続してください。また、仕切弁（バタフライバルブ）に直接製品を配管すると、パッキン面が破損する恐れがあります。短管を介して施工することをお勧めします。

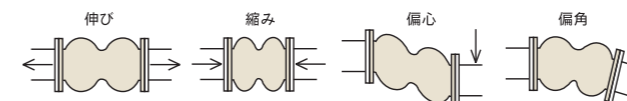


- 8) 保護板・保護キャップが取り付けられている製品は、取付け直前まで取り外さないでください。
- 9) 製品取付時にはパッキン面をきれいに拭いてからご使用ください。
- 10) フレキシブルホース施工上の注意事項

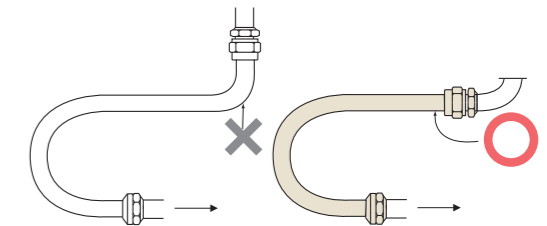
- ① フレキシブルホースは加圧により数パーセント程度の長さ変化を生じます。取付けの際は、多少のたるみをもたせ、ホースを一杯に張ったり、無理に引張った状態で取付けしないでください。



- 2) 製品は内圧により反力や面間の変化が生じます。配管サポートや防振架台等の検討に必要な製品性能データはお問合せください。
- 3) 製品は、伸び・縮み・偏心・偏角など取付時寸法許容値内に納まるよう施工してください。

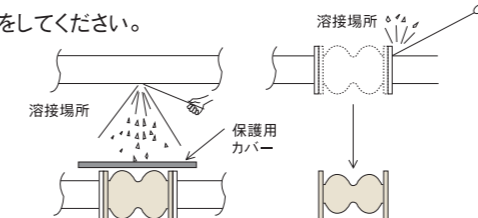


- ② 極端な屈曲や無理な湾曲での接続は寿命を縮めます。最小曲率半径以上で作動するよう取付け、最小曲率半径を下回る曲りが生じる場合にはエルボを取付けてください。

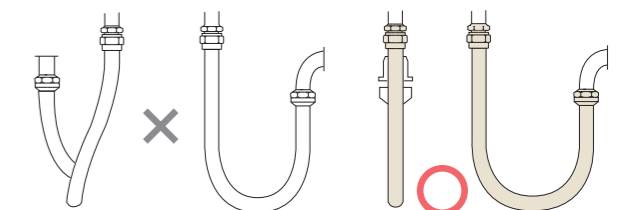


- 4) 製品が変位した時、周囲の構造物や機器（特に鋭利な角）が製品に触れないようにお取付けください。
- 5) 製品を配管に接続する際は、過度の応力（圧縮・引張り・ねじりなど）が加わらないよう、寸法確認および芯出しを正確に行ってください。

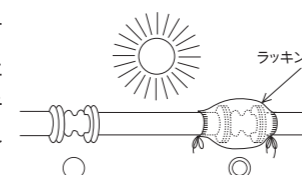
- 6) 取付け後、その付近で溶接・溶断を行う場合は、製品に火花が掛からないよう保護用のカバーなどを被せてください。また、溶接・溶断の熱が伝わる恐れのある場合には、製品を外すなどの処置をしてください。



- ③ フレキシブルホース取付け時、ねじりが加わらないようご注意ください。繰返し変位を受けるような場合は、変位の方向と製品の曲げが同一平面になるように配慮し、ねじりを避けてください。ねじれたままの状態の内圧が加わると、異常な応力が発生し、製品本体が破損したり、継手金具がゆるみ漏れの原因となります。接続要領はP.123をご参照ください。



- 7) 製品は屋外露出使用も可能ですが、特に劣化防止を考慮される場合はラッキングなどの被覆をお勧めします。



- 11) FLONEXαシリーズのストッパーボルトを施工時等に取り外した場合、必ず取付け直してください。ストッパーボルトは標準面間寸法になっております。許容変位量範囲で必要に応じて調整してください。

- 12) サイレントコネクタの内筒は簡易接着で取り付けられています。外れた場合は本体に挿入し、定位置に入っていることをご確認後、施工願います。